

令和3年度 第2回まちづくり総合委員会 議事要旨

日時：令和3年12月6日（月）13時30分～

場所：北広島町役場本庁 2階会議室

出席者

委員	三浦委員長・小笠原副委員長・長田委員・織田委員・加計委員・西山委員 小川委員・宇川委員・寺田委員・友田委員・山本委員・板倉委員・藤田委員
事務局	財政政策課 植田課長・高野係長・和泉・山岡
委託事業者	(株)ジャパンインターナショナル総合研究所 井原

1. 開会

2. 開会あいさつ（委員長がオンライン出席のため、職務を代理して副委員長が議事を進行）

3. 新委員の紹介（委員の交代について）

新委員 広島市信用組合千代田支店 支店長 西山慶祐 委員

4. 議事

議事1	（1）第2次北広島町長期総合計画 後期基本計画（素案）について
内容	<p>第2次北広島町長期総合計画 後期基本計画 素案 について 資料2「1. 提案説明、2. 第2次北広島町長期総合計画 基本構想 についての変更（案）について」により事務局から説明を行う。</p> <p>（委員） 勘違いがあつてはどうかとの思いで一言述べる。IJターンを含めた展開を明記しているが、当初Uターンがないのが議論になった。本来、出身の人間が帰ってきたくなるようなまちづくりをしたほうが良いのではという意見が出ていたことから、Uターンに絞ってきた経緯がある。たくさんあつていいと思うが、大きな骨格とすればボヤけるのではないかと感じている。</p> <p>（事務局） いろんな方面から北広島町に住んでいただけるような環境づくりを目指していったほうがよいのではないかとということで、Uターンだけでなく、IJターンも進めたい。関係人口づくり、ファンを増やしていくというかたちで、幅広い人に関わりを持ってもらいたい。</p> <p>（委員長） 循環を生み出す流れの中で、最初に人づくりがあつて、環境があるが、地域で生まれた人たちがそのまま地域に残ることがあると思う。その話が無い。働く場として地域の人に残ってもらうことが重要。若い世代が残って、根付いてほしいという思いもあると思う。青〈環境や場〉と緑〈魅力の増幅による交流人口・関係人口づくり〉の間に地域で育つた方がそのまま地域に残るといふ表現があつても良いのではないかと感じた。</p> <p>（副委員長） 勤めの関係や不便さとかいろんな思いがあつてどうしても町外に出ていく方がいる中で人口減になる。IJではなくて、今いる人が活気づくことが理想。基本になると思うが、いかがであるか。</p> <p>（委員） 広島県の人口がかなり減り、お隣の安芸太田町が（人口減少率で県内）</p>

	<p>一位だというニュースがあった。北広島町も住みたいという声があるが、窓口の受け皿がもっとちゃんとしたらという話が出ている。</p> <p>(副委員長) 窓口という意味では、後期計画のどの部分があてはまるか。</p> <p>(事務局) 素案の55Pからの施策2がそれに当てはまる。少しずつではあるが、新規移住が進んでいる。受け入れる側が構えてしまう話もあり、計画の中に受け入れ側の話を盛り込んでいる。</p> <p>“地域で育った方が地域に残るという表現をいれては”とのご意見については、「地域に根付き未来を担うひとづくり」に包括していると捉えている。直接的な表現があった方がよいのか、ご意見を聞きたい。</p> <p>(委員) 私はこのままで良いのではないかと思う。子ども達がまちに残るということは素案にも出てくるかと思う。</p> <p>(委員長) 要素としては最初の内容が入っていると思うが、循環の流れの中で人づくりが先で、その後に環境・場という捉え方であれば、こちらの表現で良いかと思う。</p> <p>(副委員長) 人がいなければならないし、人がいるためには環境が良くなくてはならないと、いろんなことが絡んでくる。どこから循環が始まるかということになる。委員長が言われたように、このままで良いのではないか。</p> <p>第2次北広島町長期総合計画 後期基本計画 素案 について 資料2「3.第2次北広島町長期総合計画 後期基本計画（素案）の計画体系について」により事務局から説明を行う。</p> <p>(副委員長) まず、共生社会の実現という表記について、P84～85を見てのご意見はどうか。</p> <p>～ 意見なし ～</p> <p>では、ここの表記はこれでよろしいということをお願いする。</p> <p>つぎの、自然環境の保全や美しい景観の表記について、P94を見てのご意見はどうか。</p> <p>(委員長) “自然環境の保全”と“美しい景観の維持”が一括りにされている。施策の方向性をみると“自然環境の保全”はカーボンニュートラルという言葉もあるように、自分たちの地域だけでなく、グローバルな視点を持たながらどのような暮らし方をするのかという部分での施策展開の内容。後半はいわゆる魅力をつくるための施策として景観のことを書いている。表記としては似ているが、やろうとしている内容は方向性が異なるものを一括りにしているように感じる。</p> <p>“自然にやさしいごみ処理体制の実現”とあるが、こうした表現は、いろんな分野で“ごみ処理”という言い方をせずに、“資源循環をいかに図るか”という発想のほうが多いはずである。例えば環境省が出している“地域循環共生圏を</p>
--	---

形成する。”という言葉もある。こうした発想のものと、人びとに魅力に思ってもらえるような“景観をきれいに保つ”というのは、具体的な施策の中身がズレるのではないだろうか。

(事務局) “自然循環”で考えることが今の状況に合っていると考えられる。事務局で検討して再度、確認していただくようにしたい。

(委員) 基本構想の内容を変えるということだったが、前回議事要旨に、観光計画を作っているということがある。素案のどこに入ってくるのかが知りたい。また、施策の進捗がわからない状況があるので、どのように管理して、どのように周知されるのかが知りたい。

(事務局) 「第二次北広島町観光振興まちづくり計画」については策定中であるが、素案 68P の施策 2-6 に含んでいる。

進捗状況や評価は、毎年度まちづくり総合委員会の第 1 回に各課から事業について 5 段階程度で評価し、進捗状況と課題・成果、次年度に向けての方向性といったことを示し、委員にご意見をいただいて、各課に戻しており、ご意見をどう捉えるかと検討し、その結果を HP で町民に周知している流れである。

(委員) そこをしっかりとしないと、周知ができていないまま結論をむかえて、また新しいものをつくるとなると、コロナで人間関係が希薄になっていることもあって、先ほどの“点と線”から“面”にしていくというネットワークの関係も難しくなるのではと心配している。

(事務局) 情報発信については不十分なところがあると認識している。

(副委員長) 全般について、要点を説明してもらった。全体として意見はあるか。

(委員) まちづくり懇談会はどれくらい参加されているのか。

(事務局) まちづくり懇談会を 4 会場で開き、参加者は 1 会場、約 15 名のところもあれば、多いところで 30 名程度、全体で 100 名程であった。長期総合計画後期基本計画策定にかかる進捗状況を説明する中で 12 月にパブリックコメントをお願いする予定にしているので、ご意見をいただきたいとお話した。

(委員) 資料 2 の素案の内容について、共生社会の施策の展開の中に、女性や障害のある方、外国人といったところがあるが、LGBT についての記載がない。今、すごく知られてくるようになったが、これまでは社会の中に隠れて分からないことがたくさんあったけれども、該当される方にとって、とても生きにくい社会であったと思う。やはり認識と理解をしていくべき問題だと思うので、ぜひ、共生社会の実現の中に、一項目加えるか、どこかに含めていただきたい。

(事務局) 記載については検討してお示ししたい。

(委員) 今、イノシシ・シカ・サル、散歩をしてもクマに出会うこともあって、本当に身近に被害を受けている人も多い。有害鳥獣のことを農業のどこ

ろに取り組みとして書いてほしい。

(事務局) 46P 施策の展開⑤のところで、有害鳥獣について記載をしている。主な事業として、有害鳥獣捕獲対策事業をあげて取り組みたい。

素案の策定にかかり、担当課の確認を進める中で、職員の中から、新しい言葉が出てきていてわかりにくいという意見が出ている。注釈をつけてはどうかという議論もいただきたい。

(副委員長) 新しい言葉が社会にどんどん出てきているが、全てを理解することはできない。今のところ注釈がまったく入っていない。ページ数や誌面の関係もあるかと思うが、あまり聞いたことがないような表現の言葉は注釈を付けてもらえたら、理解しやすいと思う。これに皆さん、異議はないか。

～ 異議なし ～

(委員) 小中学校でも教育内容に人権学習・人権教育の一環としてLGBTQの話もしている。ぜひ入れてもらいたいと思う。有害鳥獣については、小学校でジビエを給食でいただく機会があり、子どもたちが食育の勉強をさせていただいた。私の地域でも大変苦勞されている。被害も多くなっており、生活そのものが脅かされている。処分するだけではなく、命をつないだり、経済につなげて活かすことができたらいいと思う。

目標のひとつを北広島町に“住みたい”ではなく、将来北広島町に“貢献したいと思う子ども”という内容に変えてもらえたことが大変ありがたい。このアンケートをもって「どういう形で北広島町に貢献していけるか」と話しをする材料にできると思う。ふるさと納税を使って北広島町に税金を納めることもできるようになってきた。環境の保全といった内容からふるさと納税という形で経済につなげていけたら、子育てのほうにもお金や力が回る。税金も納めやすくなる。

(事務局) 遠くにいても育ったところを大切に思う気持ちを育み、社会貢献という気持ちも育っていくと思うので、ふるさと納税には力を入れているところである。

(委員) 素案を読んで思うことをどこの課に言えばいいのか書いてあれば良い。

(委員) 問い合わせ先が書いてあったら良いと思った。こういった場に出席されたことが無い方の意見も、やっぱり大事になってくると思う。

(事務局) 町の計画やまちづくり全般に対するご意見をいただく手段について記載する方向で検討する。

(副委員長) スポーツ振興でソフトテニスを前面に押し出しているが、ソフトテニスは広島市でも東京の真ん中でもできる。スキーは季節性と地域性があり、町内にもスキー場があり観光資源の基になっているので、そのあたりの表記もほしい。小中高とスキー教室もやっているの、北広島の町民が1回はス

		<p>キーができる環境にあってほしい。</p> <p>(委員) スポーツ協会としては、スポーツ推進計画で、スキーや野球など伝統競技をきっちりと入れている。伝統のある競技は重んじており、決して、今までのことや北広島町特有のものを疎かにしていない。こちらの大きな総合計画の中でも出ていてほしい。住民のみなさん方にはわかりやすくしたほうがよいのではないか。</p> <p>(事務局) 素案 P72・73 の“スポーツを通じたまちづくりの推進“で、ソフトテニス以外に言及をしていないところであるが、以前から地域でされているスポーツは大事にしており、その姿勢は変わっていない。スポーツ推進計画と整合をとって再度表現を検討したい。</p>
議事 2	(2) 意見募集 (パブリックコメント) について	
	内容	<p>第 2 次北広島町長期総合計画 後期基本計画 (素案) に対する意見募集 (パブリックコメント) (案) 資料 3 により、事務局から説明を行う。</p> <p>(副委員長) 町民のみなさんにはどのように告知していくのか。</p> <p>(事務局) ホームページのほか、きたひろネット放送、きたひろ情報アプリでの告知を予定している。そのほか良い方法についてご意見あれば伺いたい。</p> <p>(副委員長) ホームページを毎日みられる方は少ないと思う。きたひろネットも 100% の加入ではない。もう少し告知方法を考えた方がいいと思う。時間が無いので区長文書で流すということもいかない。委員の皆さんはいろいろな方が集まっている。各委員で情報流せる場所があればお願いしたい。</p>
議事 3	(3) 今後の予定について	
		<p>「第 2 次北広島町長期総合計画 後期基本計画」策定関連スケジュール (案) 資料 4 により、事務局から説明を行う。</p>
		<p>(副委員長) 製本は、各家庭に配布されるのか。前回は全家庭にあった。</p> <p>(事務局) 各家庭に配布はしないが、ホームページに掲載する予定である。</p> <p>(委員) 配布先などの想定はあるか。</p> <p>(事務局) 委員・議会議員・県内各市町への配布を想定している。町民への配布は予定していない。</p> <p>(委員) ホームページでは難しい。区長など主などところには配ってほしい。</p> <p>(事務局) なんらかの形で配布できるか、検討したい。</p>
	その他、議事全般を通して	

	<p>(委員) 素案 11 P の産業構造の推移に最新値 (R 2) は出るか。32 P の本文の 2 行目に “16,730 人と推計されています。” との記載があるが、グラフと記載数値の関連がわからない。27 P の “認知サポーター” は “認知症サポーター” である。102 P の “交通事故件数” は目標値に向けて増えているがどうか。</p> <p>(事務局) 最新値はまだ出ていない。グラフと表記がわかりやすいように工夫する。認知症サポーターに変更する。事故件数は R 2 が特に少なかったため、このようなことが起きている。注釈などを含めわかりやすく変更する。</p> <p>(委員) この計画を作った後に周知・活用していくことが非常に大事だと思う。新しい言葉がどんどん出てくるので、フォローを期待したい。行政ということで、出されたものすべてを実行し、進捗の確認をすることは大変だと思うが、その中でも北広島町らしい特徴のあるものに更に優先順位をつけて力を注ぐことも大事かと思う。意見募集の広報のところは協力させていただける。</p> <p>(委員) 告知など協力できることはやっていきたい。</p> <p>(委員) 今後気づいたことがあれば、どうすれば良いか。</p> <p>(事務局) 今週中に事務局に連絡をいただければ、意見募集にも反映できる。</p> <p>(委員) “ワクワクする、子ども達がやりたいな” という施策があるといいと思う。DX の話があるが、行政のスマート化ではなく、新しいことを生みだしていくことにつながることでできたらいいのかなと思っている。</p> <p>(委員) 前回は大きな問題について行けなかったが、ジビエの “利用” から “循環” ということやゴミがゼロになれば良いなと思った。</p> <p>(副委員長) 多くの意見をいただいた。本日は終了させていただく。意見募集がたくさん出るのが活性化、町民一人ひとりが知らないことが一番いけないので、2 月にこんなにたくさんの意見が出たのかと言えるように皆さん協力してがんばりましょう。</p> <p>(委員長) パブリックコメントはわずか 2 週間でご意見いただけるのか、こちらから積極的にご意見をもらえる状況をつくらなければなかなか難しい。とても不安に思う。(北広島町では) 協働のまちづくり指針というわかりやすい冊子を出している。みんなで話し合いをしながら自分たちの暮らしを豊かにするという発想からすると、多くの人がこれについて話し合うということが必要だと思う。今日の議論を受けて 2 週間で、ではそれやってくださいと言っても、とても無理なことではないかと思う。協働という言葉を使っているのも関わらず、それを踏まえた方法になっていないと思う。パブリックコメントによって、しっかりと協働して計画立案できるような進め方をしてほしい。</p> <p>(事務局) 期間は年末年始まで伸ばす方向で手法もあわせて検討していきたい。</p>
--	--